



SPiRIT

超ベテラン対決は井上に凱歌。敗れた山崎は引退…お疲れ様でした！

2002・9・28(土)
後楽園ホール
山木ジム・東金ジム主催 (MAキック)

- RESULT**
- バンタム級3回戦**
●牛若丸 (習志野ジムSC)
【判定0-3】
○所沢ジョー (マイウェイ)
- フェザー級3回戦**
△小暮正祥 (土浦ジム)
【判定0-0】
△花岡 央 (明和心魂)
- ヘビー級3回戦**
○馬場伸孝 (山木ジム)
【2R0分48秒KO】
●井上由久 (武勇会)
- 59kg契約3回戦**
●文蔵 (山木ジム)
【判定0-3】
○丸山昌宏 (拳伸ジム)
- ウェルター級5回戦**
○萩野兼嗣 (ビクトリージム)
【判定3-0】
●岩橋智篤 (士道館ジム)
- 59kg契約5回戦**
○安倍乃 泰彦 (新潟山木ジム)
【判定2-0】
●吉岡篤史 (武勇会)
- 67kg契約5回戦**
●飯塚英史 (山木ジム)
【2R1分42秒TKO*飯塚の出血によるドクターストップ】
○ランボー 豊栄 (東金ジム)
- 59kg契約5回戦**
●カズ工藤 (新座ジム)
【判定0-3】
○ファイティング前沢 (土浦ジム)
- ミドル級5回戦**
○マグナム酒井 (士道館ジム)
【判定3-0】
●中村高明 (藤原ジム)
- 59kg契約5回戦**
●山田健博 (東金ジム)
【4R1分29秒TKO*3ノックダウン】
○増田博正 (ソーチタラダジム)
- トリプルメインイベント第1試合**
日本ライト級王座決定戦 MAライト級1位
○木村 允 (土浦ジム)
【判定2-0】
●水町 浩 (士道館ジム)
MAライト級2位 *木村がタイトル獲得
- トリプルメインイベント第2試合**
日本ヘビー級タイトルマッチ MAB本ヘビー級王者
○内田ノボル (ビクトリージム)
【2R1分40秒KO】
●中西陽介 (山木ジム)
MA日本ヘビー級1位 *内田がタイトル防衛
- トリプルメインイベント第3試合**
日本Sライト級タイトルマッチ MAB本Sライト級王者
○井上 哲 (山木ジム)
【判定3-0】
●山崎通明 (東金ジム)
MAB本Sライト級1位 *井上がタイトル防衛

何度もバックキックを繰り出した山崎。勝ちたいという気迫が感じられた(右)
両者のヒジが交錯、お互いに一歩も譲らず(上)



引退を表明した山崎に この日、宮川孝吾マイウェイジム会長(中)が 内田(右)はフックの連打で中西をKO
井上ががっちり握手 MAの理事長に就任したことが発表された

山崎通明のコメント
「やっぱりもう体の中とかがダメなんです。まだ体は動くと思うんですが、気持ちとかでついていけない部分が多くなってきて…。それで今日は、勝っても負けても終わりにしようと思っていました。最後が井上選手でよかったと思います」

井上 哲のコメント
「山崎選手、本当にお疲れ様でした。僕も体の動く限りは続けたいと思いますが、興行あつての選手なんで。これからは、僕は若手の壁として頑張りたいです」



J-NETとの対抗戦は増田 木村(左)は水町に完勝で
(左)がローの連打でKO勝利 ライト級王座に就いた

メインイベント
日本Sライト級タイトルマッチ
MA日本Sライト級王者
○井上 哲 (山木)
【判定3-0】
●山崎通明 (東金)

メインはベテラン同士のタイトルマッチ。二人が過去に対戦したのは何と94年、しかも当時すでに山崎がライト級の王者、井上は同級のランカーだったというからそのキャリアの長さがわかる。序盤、山崎はこれでもかとばかり左ミドルを蹴っていく。井上はそのミドルをキャッチしてショートアッパーを浴びせ、さらにロー、右ハイなどを返していく。井上は組んでのヒザ蹴りでも優位に試合を進めていく。だが一発を狙っているのか、大振りが目立つ。山崎は蹴り足をキャッチされても左ミドルを放ち続ける。井上は手数で圧倒的に勝るが、山崎に決定打を与えることができない。後半、井上はクリンチを多用する山崎に対しヒジ狙いにチェンジ、軌拗にショートの間合いからヒジを繰り出していく。しかし山崎も密着し決定打はもらわない。結局、終始優勢だった井上だが最後まで山崎を捕えることはできず、井上が判定勝利、タイトルを防衛した。終了後、判定における差は明らかながら「勝たせてくれ！」と叫んだ山崎。実はこの試合で勝っても負けても引退と決めていた。これまで3階級を制し、最後の試合に4階級制覇の望みを託した山崎だったが、その望みはかなうことはなかった。